

ちょっと止まり、よく見て、よく聞こう!

2015年12月

誰でも、遮断機や警告灯の無い、踏切で右の写真の様な標識を見かけたことがあるだろう。踏切の前で止まり、列車が来ていないか両側を見て、警笛の音がないか聞くことを、標識は喚起させるものである。たったこれだけで、渡っても安全だと確信できる。

あなたがプロセスプラントで働いている場合も、ちょっと立ち止まり、あたりを見渡し、聞き耳を立てるべきである。プラントはいつも自らの状態についての情報を送っているが、あなたはそれを見聞きしているだろうか? ここにいくつかの例がある。

- ❑ あるオペレータは保温していないスチール製タンクを見て、タンク壁が揺れているか、震えているかのように感じた。これは何かおかしい。彼が監督者に報告し、タンクを空にしたところ、タンクはひどく腐食していて、側壁は極めて薄くなっていた。
- ❑ ある電気技師は職場に向かう途中で他のエリアの数台の電気機器用キャビネットの前で立ち止まった。そのうちの一台は(扉が)きちんと閉まっていなかったため、正して、閉められたことを確認した。
- ❑ あるオペレータは蒸留塔のリボイラー循環ポンプの脇を歩いていて、ポンプが異音を発していると思った。ポンプを調べてみると、金属片が数個入っていた。それらは塔のトレーサポートの部品で、かなりの数が腐食して脱落していた。
- ❑ あるエンジニアは粉じん雲と可燃性固体が入った機器外側の堆積物に気が付いた。そこには潜在的な着火源(電気機器や静電気によるスパーク)があった。その機器は停止され、室内清掃のあと、適切な粉じんの洩れ防止対策が施された。



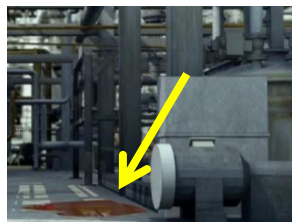
© Image Copyright 2012 David P Howard and licensed for reuse under Creative Commons License.

あなたにできること

- ❑ 仕事をする際、プラントをよく見て聞き耳を立てること。何かいつもと違って見えたり聞こえたりしないか? あなたが見聞きして調査すべきだと感じて、他の人たちは見たり聞いたりしても、気に留めていないのでは? これが「逸脱の定常化」と言われるもので、正すべきものを「普通」だとして正さないことである。見た目や音におかしいものがあつたら、何でも上司に報告し管理者が精査していることをフォローアップすること。
- ❑ 日常的なパトロールでプラント内を歩くときは、視線が変わるよう見回りルートを変えてみる。
- ❑ 以下は見つける可能性のある潜在的な安全上の問題の例である。



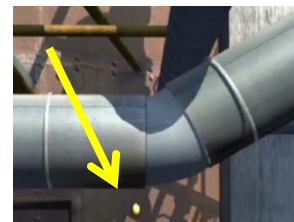
タンクが発錆し、腐食している



床にある溜まりは何か?



これは配管の亀裂か?



この保温された配管から何か垂れているのか?

注: 写真はCSBビデオからのスクリーンキャプチャーである。United States Chemical Safety Board videos (www.csb.gov)

注意して見れば、多くのことが分かる

- ヨギ・ベラ(ベースボールホール殿堂入りした名キャッチャー, 1925-2015)

AIChE® 2015. 不許複製。 非営利的な教育目的のための複製は奨励する。 ただし、販売目的のための複製は、AIChEの同意書面なしには禁止する。 連絡先: ccps_beacon@aiche.org または 646-495-1371